

データ利活用プロジェクト プロジェクト実施概要説明

2021年5月

日本ユニシス株式会社

1.プロジェクトの目的とスコープ

2.全体の進め方

3.プロジェクト計画フェーズ

- 目的 進め方
- ワークショップ
- ワークショップ実施内容
- ワークショップ進め方

4.実施スケジュール

5.プロジェクト参加者について

6.データ及び知財の扱いについて

■ 目的

本プロジェクトでは、「DXプラットフォーム構築事業」のひとつの活動として、地域に存在するデータの利活用を通じて、地域の産業および町の活性化を推進することを目的とする。

併せて、規定されたルールに基づき、安全にかつ容易にデータを活用可能なプラットフォームの構築を目指す。

■ 活動のスコープ

本活動においては、新潟市におけるデータ利活用の視点にたち地域に価値をもたらし、民間企業の活性化につながるテーマを検討の範囲とします。

進め方の概要は以下を想定しております。

■プロジェクト計画フェーズ 2021/04～2022/03

データ利活用の視点にたち、計画的な活動を通じて、活用データの整理と利活用のユースケースの導出を実施し、有効なユースケースに関しては、プロジェクト化しその実証に向けた計画立案を進めます。

※合わせて、データ利活用を運営する仕組みの検討を実施します。

■プロジェクト実証フェーズ 2022/04～2023/03

策定されたプロジェクトの実証計画に基づき、それぞれのプロジェクトで、前フェーズで検討したユースケースの有効性の確認を実施します。そこで、事業性についての検討も実施します。

※データを流通させるプラットフォームとそのモデルの検討を実施します。

■事業化フェーズ 2023/04～

実証結果として、事業化できるモデルについては、実運用に向けた対応を推進します。

※この時点でデータを流通させる仕組みを稼働させます。

■ 目的

本フェーズでは、データの利活用の視点にたち、事業化に向け有効なユースケースの導出を行います。有効なユースケースに関しては、事業化に向けたプロジェクト化を推進し、検証のための実施計画を立案します。

■ 進め方

定期的なワークショップを実施し、そこであらかじめ予定した検討テーマに関して議論し、内容を確定してきます。

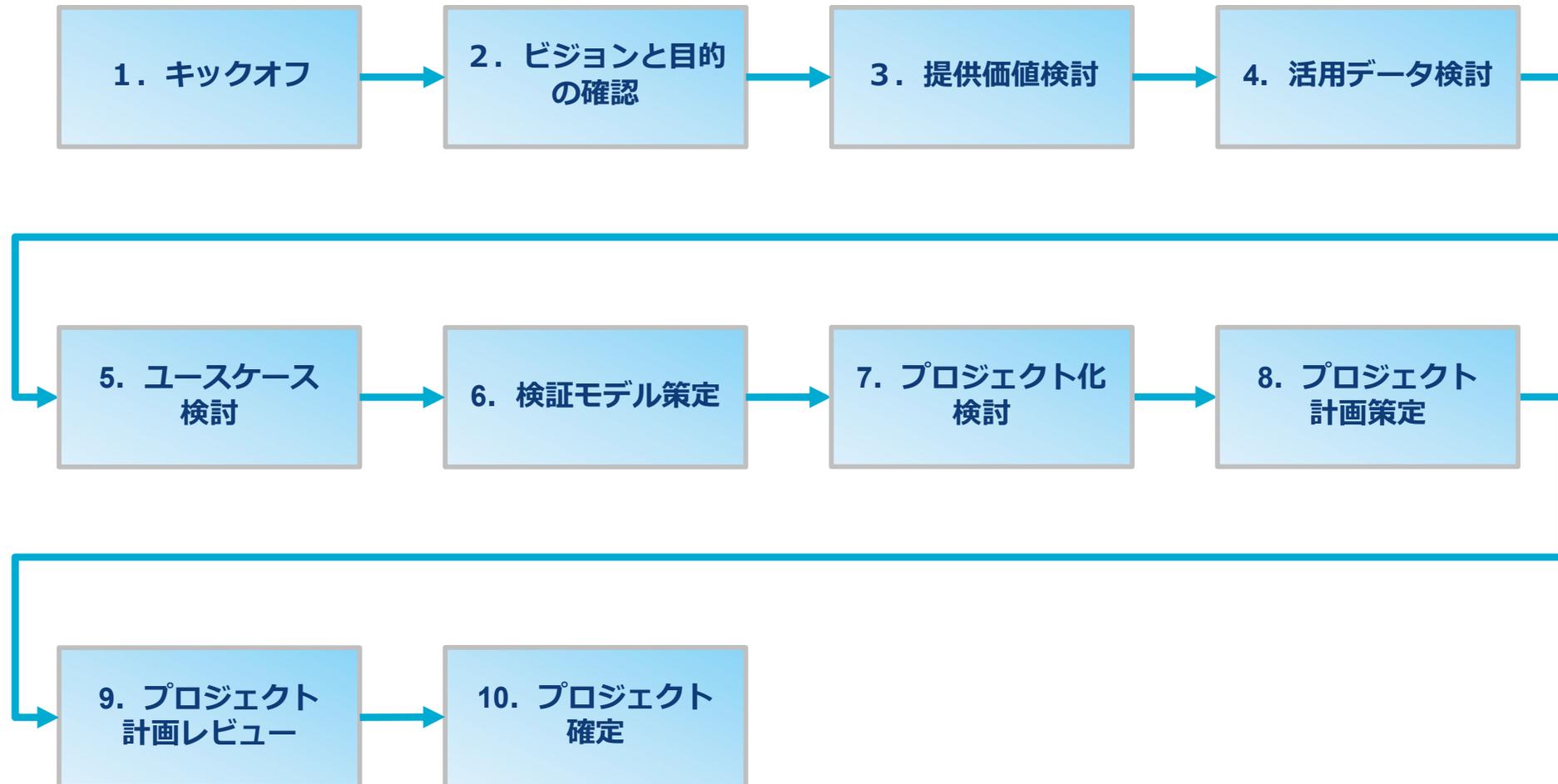
検討にあたっては、プロジェクト参加メンバーを募集し、ワークショップを推進する事で、個別のプロジェクト化を進めていきます。

- 毎月、1回あたり2～3時間程度のワークショップを想定。
- オンラインもしくは、対面での実施を想定しております。
- ワークショップでは、テーマに応じ各メンバーの事前ワークなどにより、持ちよった内容の検討などをすすめます。
- 定常的な活動上の情報共有はツールとして「Slack」を活用します。

3. プロジェクト計画フェーズ

■ ワークショップ

ワークショップの実施案は以下の通りです。



■ ワークショップ実施内容

ID	ワークショップ	ワークショップ概要
1	キックオフ	本プロジェクトの目的とスコープをメンバーで共有します。 作業の内容と進め方の確認をします。 作業のスケジュールを確定します。
2	ビジョンと目的の確認	DXプラットフォーム構築事業の目的、意義の確認をします。 本プロジェクトのビジョン、目的の確認をします。 本活動のゴール（実現イメージ）の確認をします。

■ ワークショップ実施内容

ID	ワークショップ	ワークショップ概要
3	提供価値検討	ステークホルダーの整理と提供価値を確認します。 具体的な実現後の価値提供イメージの整理を実施します。
4	活用データ検討	活用可能な移動データ群の確認 その他連携可能なデータ群の確認
5	ユースケース検討	利用可能データからのユースケース仮説導出 他事例調査

3. プロジェクト計画フェーズ

■ 提供価値検討（例）

ステークホルダー	対象	提供価値（データ利活用）
鉄道会社	〇〇鉄道	リソース最適配置（ダイヤ設計） 駅の周辺施設への送客 移動経路が分かることで周辺施設利用券とのセット商品開発など イベント列車の利用状況把握、個別アプローチ 定期券の利用促進、新しいサブスク型商品開発 コロナ対策（利用者のトレーサビリティ） マーケティング基盤として活用して広告収入を得る
小売（スーパー）	△△スーパー	顧客増加（特に若年層）、単価向上 来店頻度を上げたい 献立との連携 組み合わせの購買行動を促す パンの焼き上がりなどのリアルタイム情報配信 個人単位での特性によるセグメントプッシュ可能 （あなただけの割引情報配信）

3. プロジェクト計画フェーズ

■ 活用データ検討（例）

分類	情報	可否	概要	個人	オーナー
鉄道情報	顧客情報		顧客の個人情報	○	鉄道会社
	乗車実績（個人）		ICカード利用から得られる乗降データ	○	鉄道会社
	乗車実績（統計）		乗車実績の統計情報		鉄道会社
	運行情報		運行情報のシステム（実績データ）		鉄道会社
	時刻表データ		時刻表に関するデータ（GTFSではない）		鉄道会社
	料金データ		運賃に関連するデータ		鉄道会社
	商品情報		企画乗車券など		鉄道会社
	販売実績		商品、サービスの販売実績情報		鉄道会社
	セール・イベント情報		セール、特売に関する情報、イベント、キャンペーンなど		鉄道会社
	駅情報		駅に関する情報 路線図（図面は？）		鉄道会社
	採用情報		社員、アルバイト、パートなどの採用情報		鉄道会社
	混雑情報		リアル情報、予測情報		鉄道会社
流通	商業系会員	○	商業系企業が持つ会員情報	○	小売り
	POSデータ	○	IDPOSデータによる個人の購買データ	○	小売り
	販売データ	○	売れ筋や個人を特定しない販売データ		小売り
	ポイント情報	×	扱っているポイントに関する情報 カード側で管理	○	小売り
	商品情報	○	扱っている商品の情報（カロリー、成分の情報も）		小売り
	店舗情報	○	店舗（テナント）に関連する情報		小売り
	セール・イベント情報	○	セール、特売に関する情報、イベント、キャンペーンなど		小売り
	リコメンド情報		特定利用者向けのおすすめ情報（献立提案など）	○	小売り
	採用情報	○	社員、アルバイト、パートなどの採用情報		小売り
	店内行動情報（マーケティング）	○	店内回遊、アイトラッキング → 消費者行動 調査可能 アンケート		

3. プロジェクト計画フェーズ

■ ユースケース検討（例）

インプット		プロセス/シナリオ	アウトプット	
データ	提供者		受益者	価値
①アプリ経路検索利用情報	①アプリ提供企業	経路検索の目的地、到着時刻に合わせて最適なクーポンを配信する（12時前後に目的地周辺のランチクーポン等）	クーポン提供者	送客収益獲得
①アプリ利用者位置情報	①アプリ提供企業	店舗へ接近してきた人へ、お得情報を配信し来店促進する。	小売業	来店者増加
①会員情報 ②購買情報	①会員保持企業 ②小売業	顧客情報とそれに紐づく、購買情報から生活の変化を分析し、新規販売の提案を実施する	会員保持企業 小売業	販売収益向上
①マイカー移動情報	①未定（ETC2.0など）	移動情報から保険料を算出し、適切な保険提案の実施	保険会社	販売収益向上
①混雑度（街中） ②駐車場の混雑情報	①監視カメラ、キャリア ②駐車場事業者	混雑度を把握し、より混雑の少ない時間帯にイベント等を実施することで人の移動数の平準化をはかる。	駐車場業者 飲食業者など	販売収益向上
①タクシー予約情報 ②デマンド予約情報 ③会員情報 ④アプリ移動者位置情報 ⑤POSデータ（購買情報）	①タクシー会社 ②デマンド業者 ③交通事業者 ④アプリ提供企業 ⑤小売業	アプリ、タクシー、デマンド内の広告表示の適正化 利用者の属性や行動傾向、購入指向などに応じて、きめ細やかな広告展開を行	交通事業者 タクシー会社 デマンド業者	広告収益向上
①セール・イベント情報 ②セール・イベント情報	①小売業 ②その他イベント情報	イベント情報より、商品の品揃え、販売数量などを想定し、販売機会を最大限に活用する	小売業	販売収益向上
①商品情報（住宅） ②商品情報	①不動産業者 ②交通事業者	不動産物件に移動商品を合わせて提供する商品を開発し、新たな不動産商品として提供する	不動産業者 交通事業者	販売収益向上
①POSデータ（購買情報）	①小売業	地域の小売業のロイヤルユーザーに交通サービス（運賃、定期、オンデマンドなど）の補助を行うことで、ユーザーの来店頻度向上・顧客の維持を促進する	小売業	来店頻度向上
①マイカー移動情報 ②路線バスOD情報 ③タクシー配車情報 ④乗車実績（個人） ⑤POSデータ など、個人の行動データ（過去）	①未定（ETC2.0など） ②交通事業者 ③タクシー会社 ④鉄道会社 ⑤POSデータ など	個人に紐づく行動データから、新型コロナなどの感染者発覚の時の濃厚接触者の特定や感染経路把握などに活用	行政 ユーザー	安全・安心
①アプリ利用者位置情報 など、個人の行動データ（現在）	①アプリ提供企業	災害発生時にユーザーの現在の位置情報に基づく、情報の発信	行政 ユーザー	安全・安心

■ ワークショップ実施内容

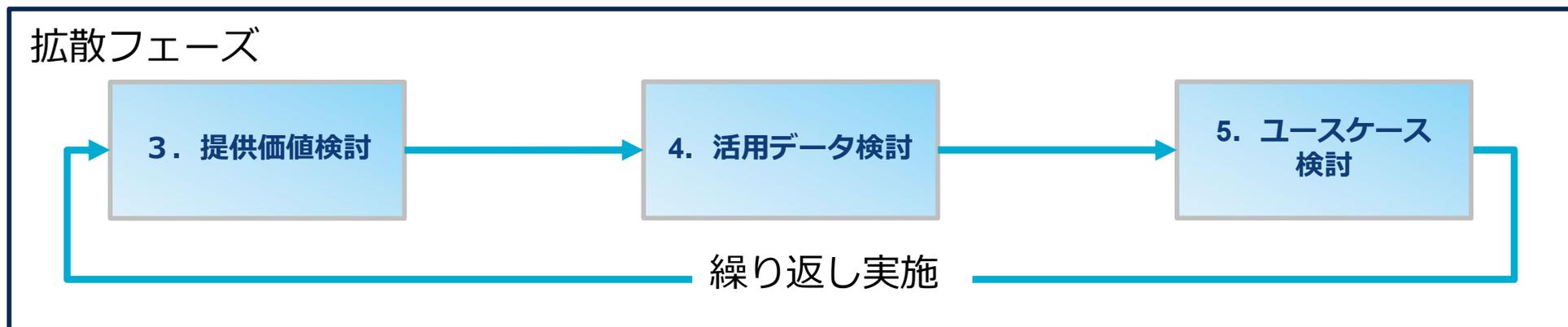
ID	ワークショップ	ワークショップ概要
6	検証モデル策定	検証モデルと評価クライテリアの設定 検証ユースケースの優先順位付け
7	プロジェクト化検討	検証モデルとして選定されたユースケースに対し、検証に向けたプロジェクトの体制の検討
8	プロジェクト計画策定	プロジェクト化にむけ、プロジェクト毎に検討にむけたプロジェクトの活動計画を作成

■ ワークショップ実施内容

ID	ワークショップ	ワークショップ概要
9	プロジェクト計画レビュー	作成されたプロジェクト計画についてのレビューを実施。実施内容の確認と最終検討を行います。
10	プロジェクト確定	提示されたプロジェクト計画を最終評価します。その結果として次年度実施対象のプロジェクトを確定します。

■ ワークショップ進め方

実際の進め方としては、作業の進捗と内容を考慮しながら、ワークショップの3項から5項を繰り返し実施し、ユースケースの内容をブラッシュアップさせ、検証モデル策定のインプットとします。



4. 実施スケジュール

2021年度のプロジェクト計画フェーズの実実施スケジュールは以下の通りです。

作業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メンバー公募	→											
1.キックオフ			→									
2.ビジョンと目的の確認			→									
3.提供価値検討			→									
4.活用データ検討				→								
5.ユースケース検討					→							
6.検証モデル策定							→					
7.プロジェクト化検討								→				
8.プロジェクト計画策定									→			
9.プロジェクト計画 レビュー										→		
10.プロジェクト確定											→	
次年度活動計画策定												→

本プロジェクトは参加者全員で活動しますが、各社の状況に応じ、以下の役割での活動を期待しております。

▶ データホルダー

自社のデータを活用する事で新たな価値（新規事業）を生み出したい
自社のデータを新たな収益源としたい

▶ データ活用

世の中に存在するデータを活用し、自社の業務に生かしたい
他社のデータを活用する事で新たな価値（新規事業）を生み出したい

▶ データ分析

データを分析する事でデータに付加価値を加えたい
データ分析した結果を新たな収益源としたい

本プロジェクトでのデータ及び知財の扱いに関しては、以下を想定しております。

- 本活動において、参加各社のデータに関し強制的に供出を求める事はございません。
- 検討にあたり可能な範囲での情報提供をお願いする事がございます。

ex)データの有無、利用可能性、データの属性など

- 実際のデータを扱う場合は、関連者間での合意のもとにNDAなど必要な対応を実施し進めます。
- 活動で発生する知財に関しては、必要な場合において関連者間で合意のもとにNDAなど必要な対応を実施し進めます。

Foresight in sight

UNISYS